

植嶋平治著「ゼロ S で整理前準備」 中小経営ゼミナール、コンサルの新しい視点 日経産業新聞 2014 年 10 月 24 日刊を読む

コンサルの新しい視点

1. 整理(せいり)、整頓(せいとん)、清掃(せいそう)、清潔(せいけつ)、躰(しつけ)の 5 つの s 頭文字から命名された日本生まれの改善活動「5S(ゴエス)」が今や生産現場を超え、オフィス、学校、地方自治体でも展開され、さらに世界の共通概念にまで成長している。
2. 5S の効果は、例えば、職場環境の美化が徹底されることにより、従業員のモラルがアップし、ものがすぐに取り出せるなど業務が効率化して顧客サービスの向上にも貢献することなどが挙げられる。
3. ただ、生みの親である我が国でさえ、成果を着実に上げ続けるのに一筋縄ではいかないのが現実だ。これは 5S の基本である「2S(整理整頓)」の方法に問題があるためだ。2S を確実なものにするための前段階の取り組み、すなわち 1S に相当する整理の前の段階という意味で「0S(ゼロエス)」と名付けた取り組みが必要である。
4. まず、ゼロからスタートするつもりで、必要最小限なものに絞り込みを行い、それ以外の不要なものを捨てる「整理」の実施に移る。
5. 次に、決められたものを決められた場所に置き、いつでも取り出せる状態にしておく「整頓」を効果的に行うため、整頓の基準を「三猿の教え」である「見ざる、聞かざる、言わざる」といった、見えない(0)、聞こえない(0)、言えない(0)という「30(3 ゼロ)」の環境に自らを置き、以下のように行う。
6. (1)【見ざる】暗闇で見えなくても場所がわかるようにする。ものの置き場を明確化する。
(2)【言わざる】誰かに言われなく(指示されなく)ても分かるようにする。書いたものでルール化する。
(3)【聞かざる】誰かに聞かなくても見れば分かるようにする。現場に表示し、見える化する。
7. 自社の 5S を再考するには、まず、その基本 2S「整理整頓」を確実なものにするため、「0S」を試してはどうか。

[コメント]

植嶋平治氏(商工中金経済研究所 常務執行役員)の「5S」の論考は、5S の基本を説いたもので極めて具体的でわかりやすい。「ゼロからの出発」は「5S」にもあてはまるようだ。大いに参考にしたい。

— 2014 年 10 月 24 日 林 明夫記 —